

THE KITAKAMI TIMES

国際リニアコライダーの英語広報誌（日本語要約版）

ボン・ヴォヤージュ、 そばっち！ 東北をPRするため、 岩手県ご当地キャラクター 「そばっち」がヨーロッパへ

岩手県 和山アマンダ



私たちはブースの出展で、世界各国からの研究者たちに取り囲まれました。会場は放射線技術に関する国際会議「2016 IEEE NSS・MIC」。なぜ、遠いフランスのストラスブールで、東北地方を紹介するブースを出展したのか。

見出しの「そばっち」とは、いったい何のこと？と研究者らは思いました。

IEEE NSS/MIC の国際会議は、毎年 1 回開催され、物理学者、専門医など、様々な分野の研究者が集まり、交流や発表を行います。放射線を利用した基礎研究に関するシンポジウム「NSS (Nuclear Science Symposium)」の開会式では、元 KEK（高エネルギー加速器研究機構）機構長の鈴木厚人岩手県立大学学長が ILC を始め、日本が国際協力の下取り組んでいる研究について発表しました。出席者の中には、ILC 計画を初めて知った方もいたでしょう。東北地方をアピールする絶好の機会と捉え、東北 ILC 推進協議会が岩手県と協力し、会場の展示スペースに ILC ブースを出展したのです。

「それは何？」ある研究者が指を指して聞きます。

ブースに来て多くの人が最初に気付いたのは、岩手県ご当地キャラの「そばっち」です。はるばるストラスブールまで、そばっちとヒッグス君のマスコットを持ってきました。多くの方が知ってのとおり、ヒッグス君は、ヒッグス粒子を PR するために KEK で製作されたキャラクターです。そばっちは、岩手の魅力を発信する「わんこきょうだい」の一人です。面白いことに、岩手県のマスコットは擬人化されたお椀です。（「わんこ」とは、岩手の方言でお椀のことです。）

セールスポイントは、そばっちだけではありません。東北 ILC 推進協議会は、東北の魅力や地元の ILC に関わる取組を伝える動画を作成しました。また、東北地方の大きな地図や、東北各地で加速器産業に関わる企業のパネルも展示しました。そして、東北地方の疑似体験を誘うガイドが 5 人いました。

幸い、来訪者の大勢が日本をよく知っていました。一番印象が残ったのは、「もし、この東北がジブリの映画に出ていれば、すぐにでも行きたい」と話した方です。（『もののけ姫』の冒頭シーンや、『千と千尋の神隠し』は東北の様々な地域から影響を受けたと言われていいます。）



壁面に描かれたセルンのATLAS測定器



模型モジュールの内部



現地の子どもがそばっちと会う



ILCのブース展示

ILC ブースでの代表的な質問を紹介します。

ILCのスケジュールはどうなっているのか。まだ計画なか、又は、ILCの建設は決まったのか。

世界の科学コミュニティでは、北上山地でのILC建設を希望しており、私たち地元住民もこのプロジェクトを歓迎しています。現在、国の文部科学省を始め日本政府が検討を進めており、2018年までに決定される予定です。

なぜ、地震の多い日本でILCを建設するのか。

良い質問です。東北を知っている外国人の多くは、東日本大震災津波の発生で知ったのですから。でも、心配しないでください。ILCの建設候補地である北上山地の花崗岩体は非常に頑丈で、地下トンネルに建設されるILCは地震の影響がなく、安全です。参考までに、北上山地には既に地球潮汐観測施設があります。3.11の9.0マグニチュードの東日本大震災でも、その施設は被害や影響がありませんでした。

今回の目的は、東北をヨーロッパでアピールするだけでなく、ジュネーブ近郊にあるセルンの視察でもありました。しかも、ILCのアジアディレクター山本明先生に研究施設を丁寧に案内してもらいました。同じような施設が、岩手の北上山地で建設される姿が想像できました。

ジュネーブもストラスブールも何十年も前から、国際都市のため、英語がどこでも通じることが当たり前かもしれませんが、ILCへ向けてさらに準備が必要であると感じました。

多言語による案内、英語ができるスタッフ、ビザや行政手続きに詳しい相談員を増やすなど、岩手、東北の環境整備の必要性を感じました。また、現地のトラムや電車は効率的に何本も運行されており、交通機関の整備が必要です。また、セルンのカフェテリアでは、(最近欧米で流行している)グルテンフリーの食事も提供されており、印象に残りました。

このように、調査や日本のスタッフへ報告を行い、本当に有意義な経験となりました。今回のセルンでのサービスレベルは、まさに研究者がILCに期待するものであり、私たち岩手は挑戦していきます。

ところで、私たちのチームの中には、海外経験が一度もなく、英語を話せない人がいましたが、私たちの中で、最も国際的なメンバーになっていました。ILCでは、会場を駆け回り、積極的に研究者をブースへ呼び込んでいました。彼は、国連に勤めたり、世界の人々とかかわりのある大都市で国際色豊かな生活をしなくてもできることを見せてくれました。私たちの中で、この人が岩手と東北の「心」を最も見せたのではないかと思います。もちろん、ILC建設候補地ではさらに多言語の情報が必要ですが、この地域の最も適した大使は、ここで生まれ育った地元の人であると実感できました。

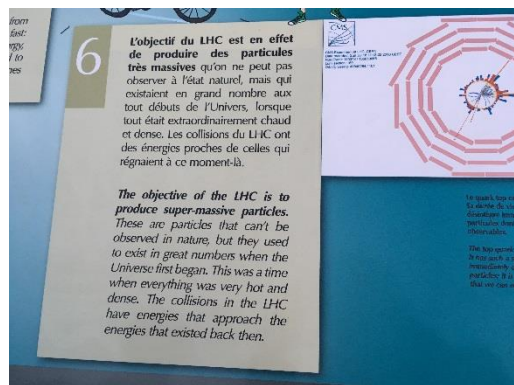
そばっちのおかげで、東北と岩手のファンが増え、岩手の将来に役立つ新しいことをいろいろ学ぶことができました。

ジュネーブ、ストラスブール、 岩手での生活

岩手で暮らしたら、どのように生活が変わるでしょうか。私は、今回初めてのヨーロッパでしたので、フランスでの生活の違いに少し驚きました。
気付いた点を下記に掲載しました。
あなたはごどう思いますか？

電車とバス

改札口がありません。フランスではチケットを事前に購入し、乗車する際にスタンプされます。乗車後に、駅員が確認して歩くこともあります。日本では、改札口を通るためチケットが必要であり、乗車してから提示する必要はありません。



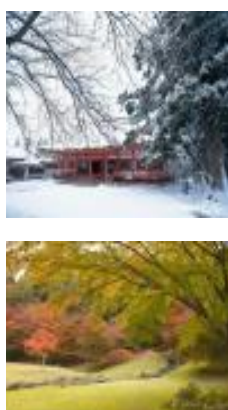
朝市

商品は違いますが、どこに行っても朝市が開催されています。下は、ジュネーブ付近（フランス側）のフィルネー・ボルテールの朝市です。右は、岩手県盛岡市の神子田朝市です。



多言語による案内

看板や案内の多くは、フランス語・ドイツ語・アルザス語の下に英語が記載されています。英語の記載がなくても、どんな意味かすぐに推測できました。



アルザス地方と 岩手県の共通点

二つの地方の文化は、思った以上に似ています。どちらも人間も馬も暮らす伝統的な家があります。アルザスの木の家具は、黒っぽい塗料が塗られており、岩手県の岩谷堂たんすや漆器を思い出します。そして、どちらも、農業が盛んに行われています。



世界遺産

左は、ストラスブール大聖堂。右は、岩手県の世界遺産・平泉。



LCWS2016

5-9 DECEMBER, 2016 2016年12月5日～9日
Aaina Center & MALIOS, アイーナ、マリオスにて
MORIOKA CITY, IWATE, JAPAN 盛岡市で開催

The workshop will be devoted to the study of the physics cases for future high energy linear electron positron colliders, taking into account the recent results from LHC, and to review the progress in the detector and accelerator design for both the ILC and CLIC projects.

LCWS のワークショップでは、セルンの LHC の最近の実験結果を考慮しながら電子と陽電子を衝突させる将来の高エネルギー直線型加速器の物理科学的な論証や、ILC・CLIC プロジェクトのための測定器・加速器設計の進捗をレビューします。

LCWS 2016 in 盛岡

詳細はこちら



Guide to Morioka City

盛岡のガイド



ALL IWATE
FAIR

lcws2016



企業展示

参加者配偶者向けのツアー
ー（県内酒造・伝統工芸品）



for lcws 2016

←予約を承り中

12/10（土）に開催します。

在住外国人も大歓迎。

公式ホームページ

<http://lcws2016.sgk.iwate-u.ac.jp/Welcome.html>

LCWS 2016～岩手県南に行こう！

ILC サポート委員会 ディーン・ルーツラー

12月5日～9日、LCWS（リニアコライダーワークショップ）2016が岩手県盛岡市で開催されます。

何百人もの物理科学者、研究者、行政機関、報道機関などが、ILC建設候補地近くの人口約31万人の盛岡市に集まります。

参加者の方々は、滞在中、会議や分科会、交流で忙しいと思いますが、岩手は日本有数の広い県であり、中には観光や旅行をしたい方もいると思います。多くの参加者が盛岡に滞在中、楽しく、さらに散策したいと思ってもらえるよう、岩手県南のILC建設候補地付近にある次の2ヶ所をお勧めします。

平泉～県南にある文化の支柱

さて、『2001 年宇宙の旅』のあの名曲を再生して想像しましょう。映画の冒頭のシーンで、ドラムやトランペットが響く「ツァラトゥストラはこう語った」が再生される中、旧石器時代の原人が舞台に出ます。ストーリーの推進役である「モノリス」が現れた後、日の出、道具の初発明、人類の成長欲求がこのシーンに描かれます。

モノリスのように、「平泉」が岩手県南の文化に大きな影響を与えています。北上市から一関市まで広がる平地の真ん中に丘が立っており、その丘にお寺等の建物が集積している平泉があります。布のように物理的にこの場所に織られており、そしてまた県南の文化に織られているように感じられます。2011年にユネスコ世界遺産に登録されました。

文化遺産として知られていますが、12世紀の建物や史跡が沢山あり、東京から北へ行くと、平泉ほどこんな素敵な集積地は他にないと思います。もちろん、「平泉＝仏国土（浄土）」を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として世界遺産に登録される前から、岩手県が積極的に平泉を推進し、観光のインフラがしっかり整えるよう支援してきました。平泉が全盛期を迎えた12世紀、北東北にとっては京都に等しい都だったと考えられます。

いうまでもなく、平泉はとても美しいところです。近くに住んでいる方でも金色堂の金箔を見るたびに息をのむほど美しく思います。お正月に、中尊寺の本堂の初詣が全国放送され、ニューヨークのタイムスクエアのお正月イベントと同じような文化的かつ、宗教的価値があります。

ところで、外国人は岩手に来て間もなく、平泉に連れて行かれると思います。私も岩手に到着しすぐに平泉を紹介されました。18年前の私にとって日本はまだよく分からないところであったため、金色堂を見た記憶は一生忘れません。今まで何回も平泉を訪問しましたが、岩手の生活、文化、経済など様々な分野に平泉が影響を与えていることをますます感じています。

日本独特の文化を短時間で見たい方に、ぜひ平泉をお勧めします。半日、一日あれば十分楽しめます。

毛越寺（平泉）





おまけ(美味しい牛肉)

平泉の隣に、奥州市前沢区があります。前沢は「前沢牛」が有名で、私の意見ですがこの地方で一番美味しい牛肉です。神戸牛ほど知られてないかもしれませんが、全国で高く評価されており、様々な大会で受賞しています。あまり時間がない場合は、平泉付近にある前沢牛を提供するレストランで食事をしてはいかがでしょうか。

夏油高原スキー場 ～雪がお迎えします。

伝統的な日本から、高度な技術や便利な生活で知られるモダンな日本へ移ります。

日本の隠れた秘密の一つは、冬が寒いことです。固定観念で考えれば、日本は人混みの大都会、超高層ビル、ハイテクの商品、世界有数のショッピングなどのイメージがありますが、実は、雪も沢山降ります。東京から北へ向かうと、雪が沢山あり、ウィンタースポーツ好きの方にとっては天からの贈り物…、シベリアからの贈り物といってもいいですね。関係者の話では、北海道と同様に東北の雪は世界一の質で、アジアのスキー場を有しているそうです。

県南には奥羽山脈が広がり、北上市付近には夏油高原スキー場があります。例年は、夏油高原が本州の中で、最も降雪量が多いスキー場です。雪が軽いパウダーで、スキーとスノーボードをするには最適です。今年の冬は、12月3日（日）にオープンし、来年5月中旬まで営業する予定です。夏油高原は、他のスキー場より遅くオープンした記憶はありません。今年も予定どおりオープンし、大量のパウダースノーが降ると思います。

夏油高原は、中規模のスキー場であり、ゴンドラ2台、ハイスピードリフト1台、ペアリフト2台を有しており、初心者向けのコースから上級者向けのコースまで沢山あります。

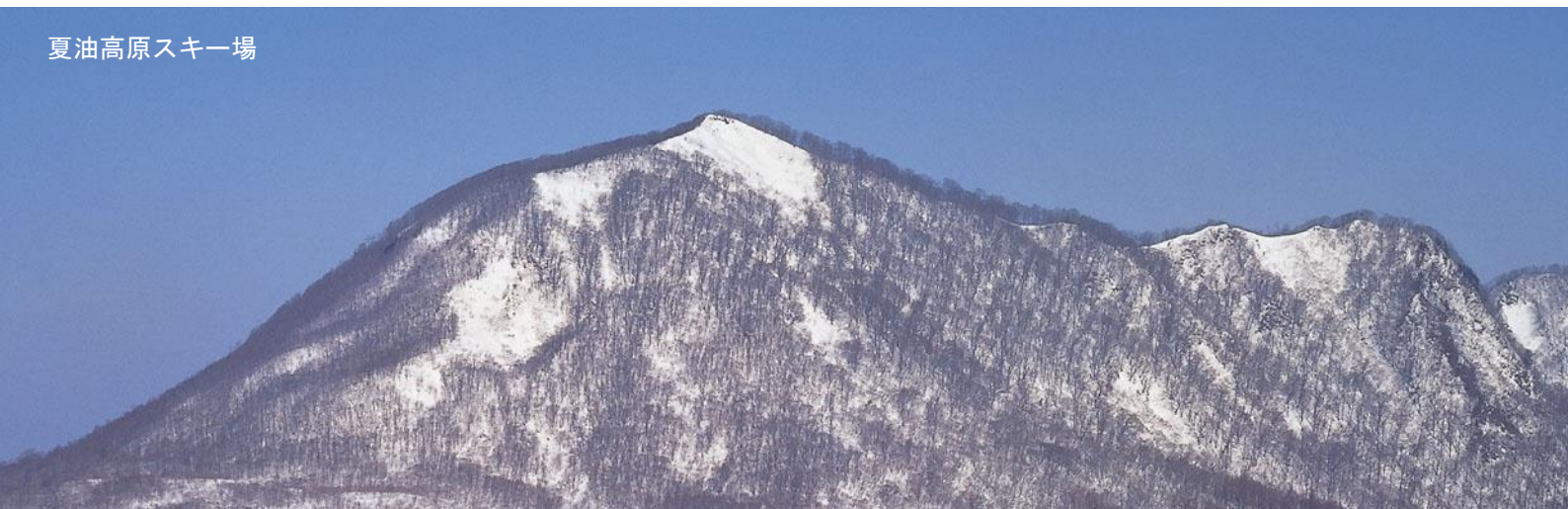
また、営業時間が終わるまでゴンドラを運行していますので、お客さまが最後まで暖かい環境でゲレンデを上がることができます。

そのほか、スキー場のロッジ施設では様々なサービスが提供されています。ベースロッジには、駐車場からリフトまでつながるエスカレーターや、待ち合わせ・チケット売りのスペースは『スタートレック：ディープスペースナイン』にも出そうなモダンなデザインです。食堂は広く、大きな窓からゲレンデがはっきり見えます。食事は、和食からインド料理まで、手頃な価格で提供しています。夏油高原は、北米やヨーロッパのスキー場と比べ、とてもお得な感じがします。

むすびに

観光の時間があまりないという前提でLCWSの参加者へ2つの選択肢を紹介しました。一つ目は、日本の伝統的な文化や歴史に興味を持つ方向けに、二つ目はアウトドアが好きな方向けとして。これら二つの選択肢は、東北の素晴らしさの一部ですが、岩手県南の優れた観光資源だと思います。

夏油高原スキー場





日本の近代 科学の父と ILCのある 未来

一関市 ネイト・ヒル

一関市の子どもたちと在住外国人が「日本の近代科学の父」と呼ばれる大槻玄沢にまつわる英語劇（オランダ語の台詞も）を上演しています。玄沢は1757年に一関で生まれました。当時の日本は外国との交流を厳しく制限した鎖国政策が行われ、貿易の相手はオランダと中国に限られていました。その中で、ただ一つの外国への窓口である長崎の出島から入ってくるオランダの本や物を通して、ヨーロッパの科学を研究したのが蘭学です。玄沢によって大きく発展しました。

「近代科学の扉をひらく 大槻玄沢」は一関で熱心に学ぼうちに、医学で人々を救いたい、蘭学という新しい学問を勉強したいという気持ちが玄沢の中で大きくなっていくシーンから始まります。彼はその後、江戸の土を踏み、医学や西洋の知識やオランダ語を学びます。6年後、長崎への遊学が決まります。そこにあるオランダ商館でオランダ人と交流し、江戸に戻った玄沢は藩医として開業するかたわら、自らの塾を創設し、様々な和訳等に携わるなど、一生をかけて日本近代化のための知識の扉を開きました。劇の第1～4部はこれを物語り、最終章の第5部は2030年代のILCが実現し稼働が始まっている一関が舞台です。ここでは、ある在住外国人研究者2人が加速器技術を使った治療に救われます。

山目市民センターが主催する、子どもたちによる英語劇は去年に続き2年目で、自分の地域のことを学び情報発信してもらい、また国際交流の場を設けることを目的とした事業です。今年のテーマは「英語で！スポーツで！ILCで！国際キッズになろう！」で、小学生16人、中学生2人、高校生1人と、市内在住外国人の外国語指導助手4人と私も参加しています。

これまでの活動を紹介します。

< 5月 >

皆さんでバスに乗って仙台に行き、東北大学留学生協会が主催する国際祭りに参加し、会場内に設置された屋台で様々な国の料理を満喫しました。その後、スリーエム仙台市科学館に移動し、学びツールを見たり触ったりするなど、元素、粒、太陽光発電などについて楽しく学びました。

< 6月 >

イギリス連邦の多くの国で人気のスポーツである「クリケット」を体験しました。東北クリケット協会の会員となっているオーストラリア人やインド人、パキスタン人の方々に一関まで足を運んでもらい、クリケットを紹介してもらいました。参加した子どもたちは野球との違いを学んだり、すぐに上手にできるようになり、クリケットを楽しんでいました。

< 7月 >

一関市博物館で、劇の主人公である大槻玄沢について学んだほか、高エネルギー加速器研究機構(KEK)が作製した「ILCかるた」を使って遊びながら、ILCについて学びました。

< 8月 >

台本が完成し、私が英訳しました。若い子どもたちが演じることを意識しながら、原文の意味とあまり変わらないように訳しました。オランダ語の台詞は、DESYのバーバラさんに英語からオランダ語に訳してもらおうようお願いしました。バーバラさんは去年4月に素粒子物理研究所の広報担当者として、北上サイトの視察に訪れています。

< 9 月 >

劇の練習が始まり、毎週土曜日に行われました。休憩時間等に、子どもたちに楽しんでもらえる要素も加え、今年開催された「希望郷いわて国体」のデモンストラレーションスポーツ「スポーツ吹矢」を体験しました。とても楽しくて、私は忍者になった気分になりました。

< 10 月 >

劇の初上演が行われ、子どもたちは大変上手に演じていました。私は、オランダ人の 1 人として出演しましたが、なかなかオランダ語が覚えられなかったですし、発音も難しかったです。子どもたちが英語の台詞を覚える大変さを実感しました。

なお、この事業に携わった関係者や出演者のコメントは以下のとおりです。

～事業を企画した山目市民センター横山圭さん～

「市民と在住外国人が一緒にアイデアを出し合って企画し、実施した事業です。子どもたちに国際交流の楽しさを感じてもらえたなら幸いです。」

～台本・演技指導を担当した二宮彩乃さん～

「英語劇の主人公・大槻玄沢という人物を通して、台本を書きながら、一関のこと、国際化のこと、ILCのことを改めて沢山知ることができました。子どもたちにもそれらが伝わっていれば嬉しいです。」



～一関市博物館の相馬美貴子副館長～

「200 年ほど前に最先端の科学を追求した大槻玄沢が、現在の先端科学である ILC と結び付けました。演じる子供たちのキラキラした目。玄沢も子どもの頃、そんな目をしていただろうと思います。過去を取りあげて、未来を感じさせるステキな英語劇です。」

～吉田桃佳さん(妹と参加している中学生で、ナレーション役の 1 人)～

「みんなが楽しみに練習に参加して、良い雰囲気です。ILC に発音を習ったり、英語で会話したりするなど、練習を通して外国人と交流ができます。これからも事業などに積極的に参加して、一関を世界中にアピールしていきたいと思います。」

～アメリカ人のナイジェル・チャーチさんが奥さんと第 5 部に、2030 年代の一関で ILC で働くために移住した夫婦役～

「私たちにとっては、一関の歴史を学ぶ機会になっているし、子どもたちにとっても異文化を学ぶ機会にもなっている。一生懸命取り組んでいる子どもたちを誇りに思うし、このように楽しく役立つことができ、子どもたちが英語を使う機会が増えれば良いです。」

劇を見る～山目市民センターのユーチューブ

<https://www.youtube.com/channel/UCU5ja606wdr5heBsZEqiH-A>

台本を読む

http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/ilc/imagem/file/1478496161_01.pdf



THE KITAKAMI TIMES ・ ILC の英語版広報誌 第 25 号

発行：岩手県国際リニアコライダー推進協議会

TEL：019-624-5880 FAX：019-654-1588

協力：岩手県、奥州市、一関市、ILC サポート委員会など

<http://www.iwate-ilc.jp>

